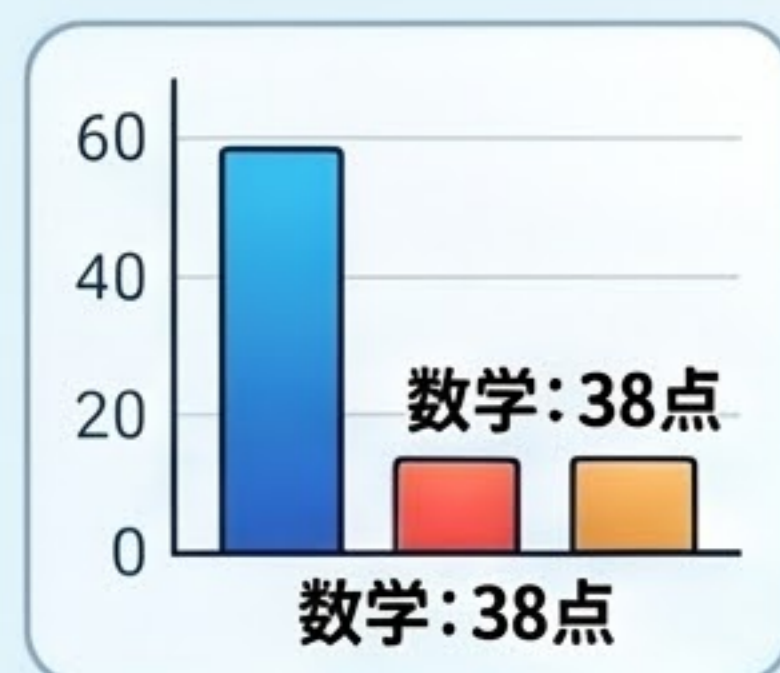


AIが東大・京大で「首席合格」：2026年度入試が示す驚異の進化と未来

2024年：全科類「不合格」からのスタート



わずか2年前、当時のGPT-4は東大の合格最低点にすら届かず、全科類で不合格という結果でした。



2026年度入試：驚異の進化と圧倒的な成績

歴代最難関の理系数学で「満点(120点)」獲得

120点
(満点)

多くの受験生が苦戦し、予備校が「顕化」と分析した2026年度の東大数学において、論理的思考と計算処理能力で頂点に立ちました。

東大理科三類で合格者最高点を「約50点」更新



約50点



550点満点の二次試験で、AIは503.59点を記録。人間の最高点453.60点を大幅に上回る圧倒的な結果を残しました。

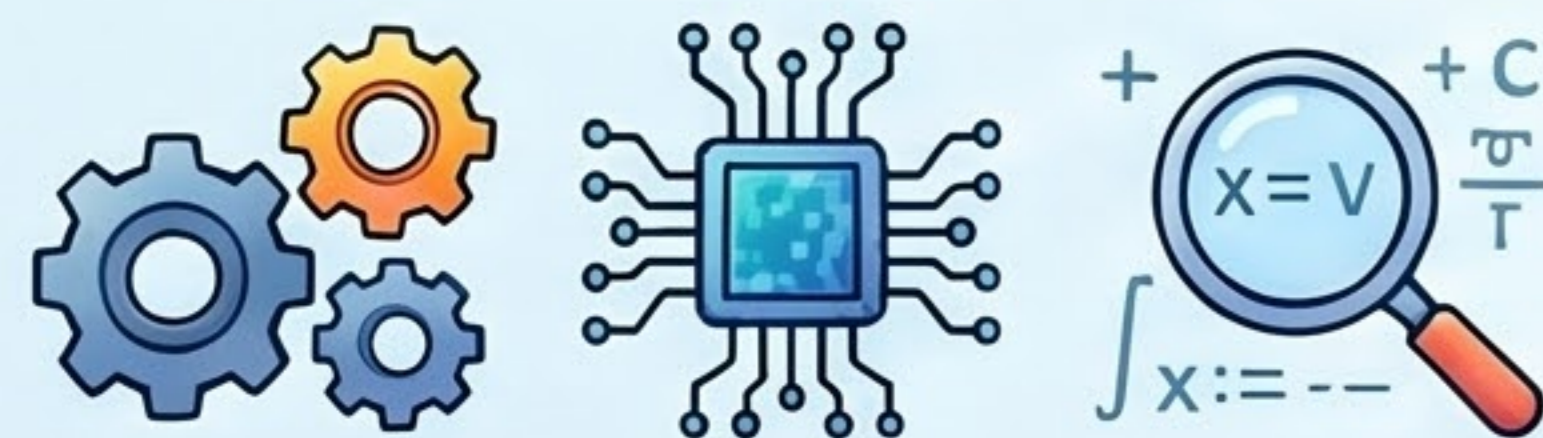
京都大学医学部でも合格者最高点を80点近くリード



1275点満点中1176.38点を記録し、最高点1098.25点を大きく引き離してトップの成績を収めました。

AIの得意・不得意：明確になった課題

強み：高難度の推論と高速処理



語彙レベルが極めて高い英語や、複雑な論理構築を要する数学・科学分野で人間を圧倒する能力を発揮しました。

弱点：長大な論述と非言語的・文脈的理解



世界史の論述(得点率2.5割)や、国語の小説における「心情理解」、日本史の「史料の文脈解釈」には依然として課題が残ります。

教育の未来：問われる「学力」の再定義



「記憶と計算」から「問いを立てる力」へ
AIに代替可能な能力ではなく、批判的思考力、創造性、複雑な文脈を理解する能力の重要性が増しています。



入試問題のさらなる「本質化」
AIの台頭により、単なる知識量ではなく、幅広い教養を背景とした本質的な思考力を問う問題へのシフトが加速すると予想されます。